

## 大きく変わる学校

### アカデミックフロンティアコース

## 日本大学中学校



日本大学中学校・高等学校は1930年に日本大学第四中学校・第四商業学校として創設し、戦後の財閥解体の影響で第一・第二・第三の3校が大学法人から分離独立後も本体に残り、学制改革で日本大学中学校・高等学校と改称した、数多くの日本大学付属校の中では筆頭格です。長らく「卒業後は日本大学へ内部進学」が当たり前でしたが、現在は、他大学進学実績が顕著な伸びを見せています。中学校は、2017年にグローバルリーダーズコースを新設し、Nスタンダードコースとの2コース制になりましたが、2022年からはNスタンダードコースをアカデミックフロンティアコースに改編します。

### 1. 進学ハイブリッド校の性能向上

日本大学中学校・高等学校では、2030年の創設100周年に向けて様々な進化を遂げるべく、新たな教育システムの構築に着手しています。「ICT教育」「グローバル教育」「人間教育」のさらなる充実を図るための教育ソフト面の「SHINKA!」を図ります。これには、単なる「進化」だけでなく、「新化」「親化」「深化」「真価」の意味が込められています。

本校は、日本大学の付属校としてのメリットである内部進学制度の優位性を保ちつつ、さらに高みをめざして他大学にも挑戦できる進学ハイブリッド校として進化しています。この10年間で卒業生の進路は変わってきました。10年前の2011年と2021年の卒業生を比較すると、日本大学への内部進学者が61%は55%に下がり、東工大などの国公立大合格者は4名が37名に、早慶は2名が23名に、GMARCH(学習院・明治・青山・立教・中央・法政)は42名から91名に増えました。今後の「SHINKA!」の具体的な成果として、国公立大合格者50名、毎年東大合格者を出すこと、医学部進学者の増加を目標に、進学ハイブリッド校としての実績向上を促進していきます。その手段の1つが、アカデミックフロンティアコースの設置と中高一貫2-1-3システムです。

### 2. 中高一貫2-1-3システム

高校は特別進学コース、総合進学コース、総合進学スーパーグローバルクラスの2コース1クラス制で、内部進学生は高校からの入学生と混合クラスに

なります。2022年度入学生からは、中学校の3年間を中1・中2の2年間と中3の1年間に区切り、中3を「高校プレコース」として位置づけ、特別進学、総合進学、スーパーグローバルのそれぞれ「0年生」とし、高校での学習効果向上に取り組みます。

### 3. アカデミックフロンティアコース

中1・中2のアカデミックフロンティアコースでは、高校卒業時に「自ら道をひらく」を実現する第一段階として、特に体験学習と探究学習を深めていきます。16学部87学科を持つ日本大学のスケールメリットをフル活用した学部訪問では体験型授業を実施します。生徒たちは理工学部におけるロボットのプログラミングや歯学部での実習、生物資源科学部での研究活動などに取り組むことでキャリア意識を育成し、興味のある分野は探究活動に取り組み、その成果を文化祭でプレゼン発表します。こうした体験型キャリア教育で生徒たちの心に火をつけ、国公立大学や最難関私立大学進学に向けた特別進学コース、日本大学や難関私立大学進学に向けた総合進学コース、といった主体的な進路選択ができるように育てていきます。

### 4. グローバルリーダーズコース

中学校グローバルリーダーズコースや高校総合進学スーパーグローバルクラスは、海外大学も視野に入れた英語力強化や課外講座などを通してのグローバルな視点を培う教育を重視しています。中3・高1段階で他のコースとの移動が可能です。